

# なますて

※「なますて」とは… インドのあいさつで「おはよう」や「こんにちは」の意味で使われます。  
我々の称える「南無」の語源とも言われています。



いっさい しゅ じょう しつ う ぶっしょう  
『一切衆生 悉有仏性』

大般涅槃経に説かれる言葉で、「一切の生きとし生けるものは、悉く仏性が有る」ということです。「仏性」とは、仏様となる性質…と言うことですから、仏様の「種」であり、仏様となる「可能性」ということでしょうか。お釈迦様は誰もの心の奥に、必ず仏様の心が宿っていると考えたのだと思います。

インドではあいさつの時、必ず手を合わせ合掌します。これはあなたの心の中の仏様(仏心)を敬います、という気持ちの表現です。

最近のニュースは「殺人」「虐待」「いじめ」等にあふれています。一人ひとりの個性が尊重され、それぞれの仏性を敬う心が少しでもあれば、このようなことにはならないだろうと思うと残念です。小さい時から仏様に手を合わせたり、食事の時に手を合わせて感謝したり…ということ、きちんと教えていかなければなりません。そのためにはまず、両親が、祖父母が範を示していただきたいと思います。「ダメな子を育てるのは簡単だ！ なんでも好きなようにさせ、欲しいものを与えていけばいい。」といひます。私も「新米じいさん」として自戒したいと思います。

ルンビニー苑では、たくさんの知的な障がいのある方々を支援しています。確かにそのハンディの故に、出来ないことや苦手なことも沢山ありますが、それぞれ得意なこともあります。その人の個性にあった課題さえ設定すれば、喜んで作業にも参加出来ます。絵や陶芸や音楽などの得意分野があります。優しさ、純粹さ、素直さ…一人ひとりのそんな「いいところ」や「輝けるところ」を見つけ、伸ばしてあげることが何よりも大切だと考えています。まさしく「一切衆生 悉有仏性」の実践です。

花巻市星が丘の「るんびにい美術館」では、「いのちの輝きとの出逢い」をテーマに、障がいのある人達のアートを広く紹介しています。障がいがあるからこそ表現できる世界があるのです。一人ひとりの心の中に宿る「仏性」が輝くことを願っているのです。どうぞお気軽にご鑑賞下さい。

合掌

# 第53回光林寺寄席

毎年、恒例の『光林寺寄席』が6月13日(土)に開催されました。  
 今回お呼びしたのは、『柳家さん喬』師匠です。光林寺寄席には  
 何度もお出演いただいております。気になって調べてみたところ、  
 何と今回で11回目の出演であったことが分かりました。初登場が  
 第四回(昭和59年、1984年)ですから、かれこれ30年以上のお付  
 き合いです。当時、若手の注目株であった師匠も今では落語協会  
 理事をお勤めになるなど重鎮としてご活躍中です。

今回の高座は、皆さんご存じの『ちりとてちん』、名人物の代表格  
 『抜け雀』、誇り高き武士の生きざまを描いた人情噺の傑作『柳田  
 格之進』の三席でした。どの話も素晴らしくすっかり引き込まれます。  
 特にメに演じられた『柳田格之進』は感動しました。是非、機会が  
 あったらご覧いただきたいです。

また、今回も裏千家高橋宗章社中の皆さんに、お茶席のご協力を  
 いただきました。ありがとうございました。



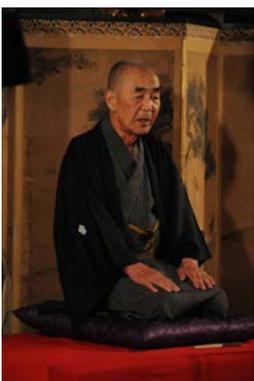
## 柳家さん喬師匠

### 芸歴

- 昭和42年 3月 中央大学附属高校卒業
- 昭和42年 4月 五代目柳家小さんに入門  
前座名「小稲」
- 昭和47年11月 ニツ目昇進  
「柳家さん喬」と改名
- 昭和55年10月 真打試験合格
- 昭和56年 3月 真打昇進
- 平成13年10月 理事付役員に就任
- 平成18年 6月 落語協会常任理事に就任

### 受賞歴

- 昭和59年 国立演芸場金賞受賞
- 昭和61年 文化庁芸術祭受賞 若手花形にて
- 昭和62年 選抜若手演芸大賞真打部門大賞受賞
- 平成 6年 第11回浅草演芸大賞新人賞受賞
- 平成25年 平成24年度(第63回)芸術選奨  
文部科学大臣賞受賞(大衆芸能部門)
- 平成26年 第42回 国際交流基金賞受賞



入船亭扇橋師匠

去る、7月10日、九代目入船亭扇橋師匠が84才でお亡くなりになりました。  
 扇橋師匠は光林寺寄席が始まった当初からお越しいただき、特に最初の10回の  
 うち8回にご出演いただきました。震災直後の2011年6月にチャリティー寄席にご出演  
 いただいたのが最後となってしまいました。光林寺寄席13回出演は勿論最多です。  
 多くの落語家さんをご紹介いただき、光林寺寄席の恩人のお一人と言えます。  
 落語以外にも俳句の宗匠としてもご活躍なさいました。

ご冥福をお祈り致します。

合 掌

# 秋季開山忌

去る、11月23日、恒例の秋季開山忌が行われました。当日は肌寒く、朝から冷たい雨の降る生憎の気候ではありましたが、祝日と言うこともあってか、たくさんの方に参詣いただきました。一般参拝者は約200名程でした。

今回の塔前(当番)の似内裕 総代(清明)八重樫利夫総代(館前)佐々木栄一総代(愛郷)の組下、総勢91戸のご協力により無事開催することができました。

また当日は、朝から塔前の御婦人方総勢50名程の皆さんに約200食のおいしい食事の支度をさせていただきました。法要のお手伝いを頂いた県内の和尚様方にも「大変美味しい」と評判でした。本当にありがとうございました。

また、40名の御詠歌講員の皆さんが法要前に30分ほど御詠歌の奉詠をしていただきました。

御詠歌とは、先人が仏法(仏の教え)を歌や詩にし、それに節をつけお唱えするものです。光林寺では昭和24年から大和流の御詠歌を奉詠しております。まだお聞きでない方は、是非、一度お聞き、興味のある方はご参加いただきたいと思えます。

これだけお檀家の皆様にご協力いただいて成り立っている開山忌は他には、まずありません。大変なご面倒をおかけしているとは思いますが、どうぞ、これからもご協力いただきますようよろしくお願い致します。



↑盛岡教浄寺ご住職のご法話

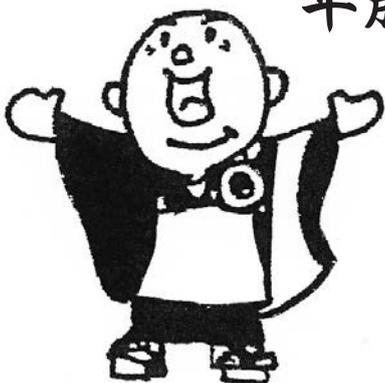


↑塔前の皆さんの手料理  
美味しそう(q^)



↑御詠歌奉詠

## 平成28年春季開山忌のご案内



日時 平成28年4月23日(木)

午前10時00分 御詠歌奉詠

午前11時00分 開山忌法要 終了後、ご法話

※平成28年春季開山忌の塔前(当番)地区は

北寺林 地区 の皆様です。

ご協力の程、よろしくお願い致します。

## 小森(子守)観音御縁日法要

去る、9月17日、小森林に在ります「小森(子守)観音」にて御縁日法要を執り行いました。この小森(子守)観音は光林寺の寺領でかつては観音堂がありました。今でも4年毎の総代改選時には必ず奉告に訪れます。

今年は今総代20名(内新総代4名)のご参加をいただきました。また、御詠歌講員16名のご参加もいただきました。

普段は光林寺に保管しております観音様を観音堂跡地に安置し御縁日法要を無事厳修致しました。

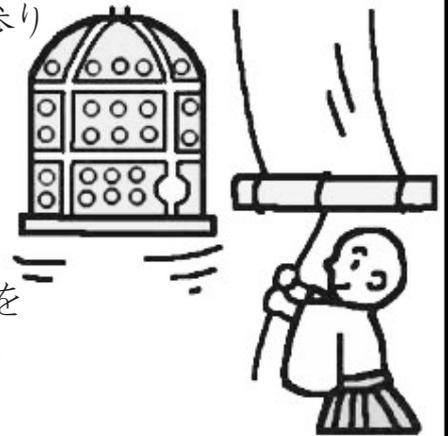


## 除夜の鐘 & 元朝参り

光林寺では大晦日の23:55頃から0:30頃までにお参りいただいた皆様に除夜の鐘をついていただいています。例年、大変冷え込みますので、暖かくしてお参り下さい。なお、鐘突き参加の方には温かい飲み物を用意しております。どうぞ、ご参加下さい。

また、ご希望の方には御札(阿弥陀如来・熊野権現)を正面玄関にてお授けしております。(志納 ¥2~3,000)

新年はまず、菩提寺と御先祖様にお参り下さい。



## 編集後記

世界情勢の不安や異常気象、悲惨な事件、往年の大スターの訃報…。昨今、ニュースや新聞を見聞きすると暗い気分になる事が多いこの頃。そんな中、嬉しいニュースがありました。それは当寺の檀家でもある滝浦輝夫氏が『現代の名工』に選ばれたとの知らせです。現代の名工と言えば卓越した技能者にのみ送られる名誉ある賞です。滝浦さんには大変お世話になっており本堂の大外幕は先代の名人 成三氏より寄贈された物ですし「たきうら」製の風呂敷もいたるところで活躍しております。身近な方の嬉しいニュース、もっと増えるといいな、と思う今日この頃でした。(\*^\_^\*)